

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には専號詳細なる商況物價の報告あり

第三千四百七十七號
明治廿五年十月十九日 水曜日
明曆壬辰八月廿九日 (甲申)
日出版五頁五十二分
月出版四十四頁五十二分
年出版五百三十四頁五十二分
電話四四四四、四四四四、四四四四
西曆一千八百九十二年

大演習に付特派員の出張

今度野州の野に於て執行せらるる特別陸軍大演習は来る二十三日より二十五日に亘る三日間大演習に先だつて小機動演習は既に各地に始まり又宇都宮は演習大本營の設置さるる場所として有栖川參謀總長殿下を始め演習掛官は既に出張して目下準備最中なれば本社其模様を詳知せんが爲め一昨日社員石川信氏を同地に特派せり又近日の内には更に社員木下立安氏を演習地に特派し且つ今泉秀太郎氏も同時に出張し戦線内に入りて戦況の模様を詳報する筈なれば今回の特別大演習に就ても其状況を讀者に報道する事遺憾なかるべし

富豪と學問

文明の風潮に連れて學問の流行を催はせし以來貴賤貴富を問はず先を争ふて學に就き學問の修業は猶ほ商業に資本を投するが如しとて之によりて他日獨立の生を營む可き基礎を成さんと一般人の期望なりしに其當初學問の珍しかりし時代には問々左様の事實もありしなれば近來に至ては學問以て金を造る能はざるのみか知字却て憂患の始なるを見る事實さへ少なくならざるよりして世間にては漸く之を厭ふの情を生じ殊に富豪の身として考れば必ずしも學問の必要を覺えず子弟が學問上の智識を伸ばして特に金を造らざるも可なり唯例によりて家を守るべきのみとて成る可く之を抑へつゝ子弟の切願に是非なく遊學せしむるの有様なりと云ふ蓋し學問の力を以て直に金を造る可らざるは今の世狀の實際に於て相違なきが如くなれば至當の學識なくしては家を守るも能はざるの事實も亦ふれを認る可らず子弟を教育して金を造らしめんと云ふも誤なり左れば之を無用視するも亦誤と云ふ可し抑も文明の進歩するに従ひ奸計黠智も亦進歩して世路をすく險しく悪を凌ぐも至らざるなし假令富豪家が子弟をして家に守らしめんと欲するも人事の風雨は繁く且つ寒く荷も間隙を窺ひ來りて城壁も破る可し門戸も恃むに足らず唯主人の用意如何に在るのみなれば無學にして家産の無事を祈るは養生の法を知らずして無病を願ふが如し無理なる所望と云ふ可きのみ名ある富豪大家にして詐偽者の爲めに欺かれ容易ならざる迷惑を被りたるの談は毎度新聞紙にも見えて實に苦々しき次第なれば若しも其主人に學問の嗜みありて法律の概略にても心得たらんには左の惡策に陥るを免れ得可き上に小人輩も其學識ありて油断なきを聞くときは初めより之に向て畏を設けるの念も起さざりしむとならんと我輩の癡に堪へ難く思ふ所なり左れば富豪が家の無事を重んじて子弟の教育を控目にせんとするは却て事變を招くの原因にみそれば假令以て學問教育を以て家と興すの念重しとするも單に守成の爲めに之を等閑に付す可らず猶ほ其教育法の得失に就ては別に述ぶる所ある可し

實業學校

近來實業學校設立の議頻りに當局に行はれて國會議員の或部分にても右の目的を賛成し或は經費多端の際苦難も擧げ易からざるの今日なれば寧ろ中等教育を廢して其費用を實業學校に充つ可しとの議論もあるよし蓋し時勢の趨く所自から是れ一説にして彼の歴史地理等の如き殆んど無効の積古を科せんよりは農業なり工業なり實用に適する業を修めしむる方途に得策なる可しと雖も我輩が爰に論者の一考を煩さんとするは教師に其人あるや否やの問題なり抑も實業の練習は理を講ずるに在らずして實を示すに在り大工左官の弟子は終日唯操れ叱らるゝのみにして實を授けられたるもどなければもイッしか一人前の技術に達するは何故なりやと云ふに唯親方の腕前の體なるが故なり教師に體なる腕前なくして而して實業教育の實効を望むは頗る無理と云はざる可らず從來の實業學校出身の生徒に就て之を見るも其結果の大概は知るに足る可し學生の不能なるに非ず教授の怠慢なるに非ず主として其實を示す可き腕前の手本を欠くに外なきのみ左れば今假に武藝學校を設るにせよ一刀流にても二刀流にても封建時代の老武者を呼起して教師甚だ多く隨て人を驚かすの結果ある可き其反對に實業の教師たる可き學者は世間に甚だ少なくして其期成の成績を見るも易からざる可し世の實業學校設立論者は一たび思を爰に致して尙ほ工風する所あらんも希望に堪へず我輩固より大工左官の教授法に甘んずる者にあらざればも實業學校のいよゝ實ならんもを欲し敢て一言を呈して參考に供するのみ

官報

○大藏省告示第四十九號
秋田本金庫所屬能代支金庫本月三十一日山本郡能代漢町能代町へ移す
明治廿五年十月十八日
大藏大臣渡邊國重

雜誌

○雜誌 (在歐某生報)
馬鹿氣に論にならずと云へば其れまでなれども毎度ながら西洋人は面白きことを金づるものか此氣象も進歩の基なれば胃頭を置きて爰に記すは佛國の健歩家グランデン氏の話なり氏は此程巴里の或る新聞記者と共して同府より露京赴き彼得堡迄徒歩の旅を思ひ立ち彌々去る八月二十日の正午巴里府某町の角より出發したるが日々十四時間宛歩行し二十八日目は露京へ到達する筈なりとぞ然るに佛蘭西と獨逸は兼々仇敵の間柄なれば道中にて獨逸の敵を食はずと氣取り獨逸旅行中の食料は一切自耳義にて調へ持ち行くよし是も亦一興ならん但し宿屋の床は借る事なる可し此程柏林にて七十三歳の長壽を保ち死去したる人あり

是はかりては珍らしからず此人が十八年目の誕生日より七十歳に至る迄五十二年の間記録したる所に據れば此間六十二萬八千七百十三本の巻煙草を吸ひ内際四萬三千六百九十二本は進物五十八萬五千零二十一本は自ら求めたるものにて此價二千零八十六磅十二志三片なり(但本人は大した喫煙家に非ざる由次にツボン下八十五點、此價九十二磅三志三片、上衣直衣合せて七十四磅此價百五十八磅三志三片、長靴六十二足此價六十六磅二志二片、シャツ二百九十六枚襪三百二十六枚此價五十七磅三志四片なり尙鐵道馬車代に八十五磅十三志二片を費し十五年間に麥酒二萬八千七百八十六杯(内二萬一千二百六十一杯は小杯を飲み此麥酒と共にブランドー其他の火酒三萬六千零八十一杯を飲みなる價は千零七十磅なりと云ふ)

果して然らば我々文章に従事する者はドクトルローグリーフランドン氏に謝せざる可からず氏は終日多忙を極めたる其獨り机に向ひ何か文章を認めんと筆を執りて工風を凝らししが其夜に限り何故か一向に妙思想浮ばず只の一字も書くも能はず流石は有名なる作家だけありて此時思案を運らしたり昨夜も随分勞れたりしかを斯るもどなかりも倍は今夜は昨夜よりも勞れ甚しく血液の運行少しく不活潑なるには非ざるかと心付き腦血運行と心力發動との關係上種々工夫したる末遂に血液を極に運ぶの策を案じ直に其頭を下げて机上にヒトと押附けるや否や不思議な思想は油然として浮び來れり筆を購るも電の如し試に頭を擡ぐれば思想又空し云々

是も亦右のローグ博士の説なり誰人にもと云はれねど先づ多數の人には冷水も貴重なる興奮劑なり冷水の心臓に及ばず動力はブランドーより一層強し氏の實驗に據れば半杯の冷水は七十六度より百度以上迄も脈搏を増すの力ありと土耳其人が冷水を以て酒に代ふるも故なきに非ざるが如し

○英國の撰舉に就て伊太利人の意見 (去十五日の稿) 是等の撰舉世話人の職掌は撰舉の仕事に計策し撰舉體の中にて有名なる人々に一々面談して之を考究し印刷物配布等一切の事を司り自黨の撰舉人の爲めに集會處を命じ候補者の必ず出席して演説す可き數回の集會の日割を定むるも及ぶ敵黨の動作に深く注意して其欠點失策を自黨の利益と爲すも是れなり凡を誰にても候補者たらん者は一人として撰舉世話人に是等の事を托せしめて事を爲し得る者なし近頃は此度の撰舉に於ても自ら余は下院に屬し居るも實に六十三三年なりと稱する老巧のグラッドストーン氏も尙ほ且みれを免れざりしなり氏が撰舉競争の旅行には氏の家族と熱心なる政友との外に撰舉世話人エム・ヒー・カンベル氏は常に同伴し居りたり

爵位の高下を論ぜず名聲の如何に拘らず各候補者は撰舉人に向て演説するに先立ち公けの問題に就て己の意見を陳べし所の印刷又は筆書したる宣言書を讀ませる可らず此宣言書は數千部印刷して撰舉人の中に配布するもどなり英國國會に歸々たるランドルフ・チャーナル卿は左右の議論なくしてパツデン・グントンの撰舉人に擲出さるる筈にてありしが卿の如きは反對せられずに當擲の榮を專にする所の僅なる人の一人なり六月二十八日に國會解散の命ありチャーナル卿は最早國會議員に非ず七月二日に新撰舉あり卿は再び國會議

員なり然るに是等の好都合も亦己れの宣言書を發したる所を據れば然れども撰舉人の歡心を儲けるを得ざる仕事に比すれば其の勢のみ候補者は毎晩、何を爲し己れが宣言書の一部問題の一二を論ぜざる可らざる之を開き居れり或る時は真中に於てし又或る時は政多きは公立學校の中に開く山黨にも保守黨にも等しく慣例なり斯く每晚陳ぶるも云ふ所のものなり然れども云ふ所のものを含み居りて明瞭にして聞

畢人は曾に何人の爲めに何の爲めにするかを了解すして毎日、倫敦の撰舉諸問題夕に一回、總べて二回の集りしなり

英國の候補者の仕事は撰舉に於て候補者は勝負分目の最勝ならず彼の難句人種の中に胚胎に種運を裝ふ一種の氣風は甚

るもなるが幸直を貴ぶ蓋し其の當日に於て公然其思

又本年九月二日孟買ガゼツ